

4月12日(水)～5月11日(木) 満月セレクト

— 今回のセレクトター ご紹介 —

Music Selector : 盛岡 夕美子



盛岡 夕美子

サンフランシスコ音楽院でピアノと作曲を勉強。帰国後は、宮下智のペンネームで、田原俊彦の「ハッとしてGOOD!」や「NINJIN娘」等多くのヒット曲の作詞作曲を手がけてきた。本名の盛岡夕美子としての活動は、クラシックピアノの演奏、コシミハルや細野晴臣等とのミニライブ、CD制作は、ピアノアルバム「レゾナンスー 余韻」、民族楽器(琴、シタール、etc.)を使ったバンド「カルチャーミックス」を日本で発売、イギリスのレーベル、リサージェンズより、Bill Nelsonとのコラボのアルバム「Culturemix」を発売。28年間の在米生活の後、現在は日本とアメリカを往復しながら音楽活動を再開している。

今回のセレクトCD

1.



Sufjan Stevens / Illinoise (Rough Trade / RTRADCDP250)

彼のアルバムは、皆それぞれが独特な世界なので非常にたくさんの引き出しを持ったアーティストという印象を受ける。それは、彼自身、バンジョー、ドラム、ピアノ、ザイロフォン、そして学校ではオーボエとイングリッシュホルンを演奏していたということからも彼の複雑な音楽性の由来がうかがえる。このアルバムはそういった彼の中の多様な音楽性が見事にミックスされたアミューズメントパークの様な楽しい作品である。

2.



Agnes Obel / Citizen of Glass (Play It Again Sam / PIASR905CDX)

デンマークのシンガー・ソングライターである彼女の音はまさに幻想的な北欧をイメージさせてくれる。どこかひんやりとした清涼感のあるミニマルな世界は決して灼熱の太陽を知らない北欧の針葉樹と曇り空の世界で、シンプルなりビートをこれだけ美しく表現できるアーティストは稀であると思う。

3.



The Civil Wars / Barton Hollow (Columbia / 88883753522)

2009年にデビューしたアメリカのフォークデュオの特徴は、なんとと言っても、ぴったりと息の合った、なめらかな丁寧なフレージングだ。伸びのきれいな声で見事にコントロールされたメロディーの美しさに魅せられてしまう。穏やかなアメリカンフォークというシンプルな表現では収まりきれない、深く熱いものを感じるの、女性ボーカルのJoyがゴスペル出身だからかもしれない。

4.



Asaf Avidan / Gold Shadow (Fiction / 06025 4712704 4)

イスラエルの若手、Asaf Avidanのシンプルで無駄のないアレンジと独得な声を初めて聴いた時は、かなりハートを鷲掴みされた感じがした。男でも女でもないような中性的な声とジャニス・ジョプリンを思わせるような迫力は、天性の音楽的才能を感じさせてくれる徐々にスケールの大きなアーティストである。

5.



London Grammar / If You Wait (Universal / UICO-1269)

このイギリスの若手トリオの凄いとこは、何気ないかっこよさだと思う。これといった新しさはどこにもないのだが、さりげない普段着をカッコよく着こなすステキな人達のように、彼らのセンスははかなりキマッていると私は思う。作詞をやっていた私の個人的な意見としては、言葉のメロディーへの乗せ方に非常に独特なものを感じる。6月にリリースされる新しいアルバムが今から楽しみである。